

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300865		
法人名	有限会社 郷		
事業所名	グループホーム 郷 一丁目		
所在地	熊本県宇城市松橋町西下郷236番地		
自己評価作成日	平成26年7月2日	評価結果市町村受理日	平成26年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭菜園で採れた野菜を取り入れた料理を提供し、ここが我が家と思っていただけるように要望に耳を傾けながら、毎日を和気あいあいと過ごして頂いている。  
又、ボランティア様や地域の方とのつながりを持って連携を図っている。  
利用者様を中心と考え、郷の理念である「自由」「自立」「安全」「社会的支援」をもとに支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所当時1ユニットから始まった事業は現在2ユニットとなり、敷地内に有料ホームなどが併設されるなど、これまでの取り組みが地域に支持され、慣れ親しんだ地で入居者の生活が展開されている。庭の植物や花の成長を楽しみ、入居者自ら収穫した野菜が食卓を彩り、摘んだ花が日々の入浴をより豊かにするなど、職員の創意工夫が随所に活かされている。入居前の生活スタイルに思いをはせ、情報収集に時間をかけることで愛犬との入居を可能にし、入居者の心の拠り所となるなど、在宅生活の延長として常に最良策を講じている。運営者は事業所や人が増えたことが入居者や利用者にとってマイナスになることなく、互いの力を結集し、関係者から納得の得られる運営を目指しており、今後の展望に期待が寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自由・自立・安全・社会的支援・地域との交流を理念とし、事業所ごとに掲示し毎日の朝礼時に読み上げ復唱を行う事で、理念を常に念頭に置きながら実践につなげている。	『入居者に安全で自由な生活を提供すると共に自立を助け、地域の一人として社会的繋がりを断ち切らない』とする理念は、開所当時の職員から受け継がれ、入職間もない職員へも運営者により伝えられている。全体朝礼では理念やユニットごとに月目標を設定して相互に確認を行い、支援の充実に向けた取組みが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の行事・寄り合い・草取り・子供会の行事訪問や施設内での行事にボランティア様の参加。又、近所の方からお花や野菜、果物を頂いたりしている。「地域の縁がわ」に登録しており、気軽に立ち寄れるようにし交流を深めている。	ホームは自治会に加入し、集会や定期的な清掃活動に地区の一員として参加している。また入居後も引き続き「敬老会」に席を置き、便りが届くなどこれまでの生活の継続が図られている。昔懐かしいどんどやや、もぐら叩き、子供神輿や相撲大会などを通じ子供との交流の機会がもたれており、地域ボランティアの協力による外出が実現するなど地元の支援も大きな力となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で報告したり、相談などがあれば対応し、専門職としての支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新聞を配布し、利用者状況や研修・行事報告を行っている。又、参加された方には必ず一言発言をお願いし、率直な意見をもらい、翌日朝礼時にスタッフに伝えサービスの向上に活かしている。	行政や包括、地域や家族代表者が参加して定期開催が実現している。昨年の評価を受け更に充実した内容とするべく、参加者へ議題設定などについて意見を求めたり、職員の入退職についてもホーム便りで紹介し、会議参加者や家族に会議録と共に配布してホーム運営の透明性を図っている。行政や包括職員も資料の準備をして来られるなど、積極的に関っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月毎に利用者様の空き状況や実績等を報告したり、相談に乗っていただいたりし協力関係を築いている。	運営者は状況報告などで毎月行政を訪れる他、必要時にはその都度、直接担当者のもとに出向いて相談事や情報交換を行い友好的関係継続がなされている。	ホームは構造上スプリンクラーの設置が必須ではないが、安全重視の立場から取り付けを行政と検討しているところであり、実現が期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加したり、勉強会を開いたりして正しい知識を身につけている。玄関の施錠はせず、自由に生活して頂ける様利用者一人一人の行動を把握し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束が入居者に及ぼす影響について全員で確認する機会をもっている。年数回はホーム内で勉強会を開き、外部研修への参加も実施している。朝礼時には拘束に関する資料の読み合わせを行い、普段から職員の意識向上を図っており、庭に続くオープンな玄関が圧迫感のないホーム作りに一役かっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会に参加し知識を身につけている。朝礼時には必ずライフラインを活用し、虐待防止について読み上げスタッフ一人一人の体調管理や言葉遣いが悪くないか等観察し、見過ごされないよう注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての活用はほとんどないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修会に参加し、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり丁寧に説明を行っている。家族の方の不安や要望を聞きながら、理解されるまで説明し納得を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し、来所時には必ず要望等を尋ね声かけを行っている。要望等に関しては真摯に受け、朝礼時や内容記載し全スタッフで話し合い運営に反映させている。	男性入居者の「肉が食べたい」という要望から計画された外食支援には、ボランティアの協力もあり、楽しまれた様子が写真からも伝わってきた。職員は普段の関わりの中から入居者の意向を引き出し、支援に反映させている。また家族との関係作りにも力を注いでおり、面会時や行事の際には個別に忌憚のない意見を求めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務見直しやグッドトライカードを設置し、意見を聞き、耳を傾け反映させている。	運営者への直接的な意見や、リーダーを経由しての意見や提案は上層会議で検討して最良の方法をとっている。ユニットごとに毎月開かれる業務改善会議でその月を評価し、新たな課題と向き合い、一つひとつクリアしながら働きやすい職場環境を目指している。	運営者はこの一年、ホームの体制強化についてあらためて考える年であったと語っており、推進会議などでも外部の意見を求め、グループホームのあり方や今後を見つめる機会となったようである。11月にはプチマルシェの開催も予定されており、職員の意見や提案を活かした取り組みが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の個性を活かした職場作りや、向上心を持ち働きやすくやりがいのある環境作りに努め、配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量を把握しているので、その人に合う研修に参加させ、又、院内での勉強会を開きトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会を通し、他の職員と共に学ぶ機会を設け、質の向上の取り組みを行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なく安心した生活が過ごせるように、その人の生き立ちを理解し支援を行い、なじみの関係ができるように努める取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所された翌日に状況報告を行い、要望等はないか尋ねたりして、耳を傾け信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が望む要望を重視し、サービス計画書に基づき対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者主体にならないよう、日常生活における料理の下準備や食器拭き、洗濯物たたみなどできる事を楽しく手伝ってもらい、支え合う関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には必ず状況報告をし、家族の要望を聞いたりしながら、距離を置かず家族の絆を大切に、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	バスハイクによるふるさと訪問を計画したり、ボランティア様の協力や馴染みの人の行事への参加で思い出して頂き、途切れないように支援を行っている。	入居者の自宅周辺を訪れる『街角交差点』は好評である。中には景色を忘れ「初めて来た、良かとこなあ〜」と口にされる方もおられるが、その一瞬を喜びとし継続して支援している。昔ながらの祭りへの参加や家族・知人の訪問、愛犬と共に暮らす生活は入居者の笑顔を引き出し、安定した日々となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係を把握し、利用者様が楽しく生活できるよう、さりげなく目配り・気配りを行い、集いあうことができるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも連絡をとり、病院等へ訪問を行うなどサービス終了後も来所されやすい環境作りをし、悩みや相談事など聞かれた時は支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からその人の希望や意向が聞かれたら、思いが実現できるように努めている。	日中を過ごすリビングからは入居者と職員の明るい声が漏れ、何気ない会話の中から思いを汲み取っている。意思表示の困難な方にも日々の行動や表情から推し量り、各職員の持つ情報とすり合わせながらプランに繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前の暮らしと入所後の暮らしに変化がないか、家族の方に聞きながらサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのできる事を生活訓練の中で実施し、記録に残し職員間で共有し、自立できるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを実施し、家族からの要望等を聞き入れたり、問題はないか話し合いを行い、プランを変更したりしながら介護計画を作成している。	本人・家族の意向が盛り込まれたプランは毎月のモニタリングで評価し、半年ごとに見直し入居者の現状に沿った支援が行われている。入居間もない時期には家族に面会を依頼し、ホームの生活に早く馴染んでもらうよう支え、看護に精通した運営者が入居者の気持ちを汲み取り、受診先と相談しながらインスリンから薬に移行するなど入居者自身の思いが反映されたものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿っての記録を記入し、気づきがあった場合はスタッフで情報を共有し、見直したりして介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方には高齢の方もおられ、衣替えも困難な状態である為、自宅へ訪問しお預かりし対応を行っている。又、入院された時は本人様を伺い、病院での病状を聞き情報交換をし洗濯物を持ち帰りホームで仕上げ、病院へ対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、隣近所の協力を得ている。また、地域での行事等に対し情報を収集、参加し地域の方々と協働し楽しみを持っていただく支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望は主治医に報告し、温度表を持参し情報交換を密に行い支援している。受診後は家族に連絡し、記録に残している。	もともとのかかりつけ医を継続して支援し、主治医を持たれていない方は、往診対応も可能な協力医を決定された方もおられる。受診は家族やホーム職員の同行など個々に応じており、結果についての情報の共有も徹底されている。訪問歯科による口腔ケアの実施も日々のバイタルチェック同様入居者の健康を支えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に変化がある場合は、常に看護職に報告し指示を仰ぎ、適切な受診が受けられるように支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はスタッフが訪問し、状況や情報交換を行い、病院との連携を図り対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より重度化について説明された時に、家族の方と話し合い十分な説明を行い、納得して頂き書類承諾・捺印を押してもらい、地域の方と共に支え合い、支援に取り組んでいる。	入居時に家族の思いを確認し、医師の判断のもと今後の対応について家族と話し合い同意書を受けている。終末期支援の研修については外部研修後に参加者による復講や、ホーム内でも職員の経験や力量を踏まえ、出来る最良の支援について会議の中で共有を図っている。直近で行われた看取り支援では、協力医の存在やホームが日頃から大切にしている寄り添いの支援のもと実施されたことが確認された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や勉強会に参加し身につけ、又、問題が生じた時はすぐに勉強会を開き対応し身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練の中で、夜間想定をした訓練を、消防・近隣の方と共に実施し、全員が身につけ取り組んでいる。	年二回、昼夜を想定した総合訓練をはじめ、夜間二回のガスの元栓や日々の掃除の際のコンセント確認は職員の火災に対する意識付けにも繋がっている。訓練では職員が緊張して通報に戸惑いがあったなどの指摘を受け、次回に活かすことが全職員で共有されている。ホームでは徘徊マップや防災マップも作成されており、消防団との協力体制も図られている。また、食備蓄については全職員が把握している。	昨年11月に実施された夜間想定訓練では、近隣者の参加協力も得られている。今後も引き続き地域の協力体制を構築されていくことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大きな声で話したり、利用者を傷つけないよう、言葉かけには十分注意し対応している。	職員は自然体で入居者にわかるような語りかけで、呼称も苗字や名前など本人が一番安心される呼びかけで対応している。個々の尊重やプライバシーに配慮した支援については、個人情報を含め研修会に限らず、日頃より朝礼の中で共有が図られ、新人職員については特に言葉使いについて細やかな指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれの個性を理解し、言葉で伝えられない利用者に対しても、思いや希望を表現しやすい環境作り心がけ、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の声に耳を傾け、一人ひとりのペースを大切にし、生活のリズムを把握し、毎日が悔いの残らないよう楽しく過ごしていただけるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を使う方、電気シェーバーでひげそりをされる方と、それぞれ本人様の自由に支援を行い、又、定期的に訪問理容などの支援も行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れる野菜の下準備を手伝ってもらい、「何が食べたいですか？」と聞いたりして食への楽しみを持ってもらい、スタッフと共に食事や食器拭きを行っている。	旬の食材を活用し器や盛りつけなど季節感ある料理の提供は、入居者の日常を更に楽しみなものにしている。ホームの菜園にはかぼちゃやオクラの他、胡麻も栽培されており「収穫や選別など手間を要するが、調理への活用も楽しみです！」と運営者は語っており、ホームの食への取り組みの深さが窺われる。また、入居者の希望(焼き肉・寿司・甘味)も取り入れた外食支援では、バイキング店に出かけており、満足の笑顔の写真が掲示されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の少ない人にはチェック表を作り記録をし、栄養バランスに心がけ支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄とうがいを施行し、週一回の訪問歯科との連携をとり、口腔ケアに取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを記録し、できる人には見守りを行い、介助が必要な人には支援を行っている。	日中はトイレでの排泄を基本とし、布下着や尿とり、リハビリパンツなど個々に応じた排泄用品を見極めながら支援している。夜間のみ使用される方のポータブルトイレも清潔を心がけ、日中は洗浄後天日干しを兼ね外で保管するなどプライバシーにも配慮した取り組みである。便秘予防の対応として菜園で収穫したゴーヤを使ったお茶や大根エキスなど、自然食材を活かし支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便-1日目から氷水+大根エキスで対応し、又、食物繊維を多く含んだ料理を取り入れたり、スタッフと共に歩行練習など、その人に合った運動を行い取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に沿って入浴をして頂いている。毎月季節の湯で大根湯やよもぎ湯、さくら湯等に入っただき、効能等を記入し提示しており、毎月楽しみにされている。	毎月工夫を凝らした季節湯(さくら・どくだみ・菊・しょうが・ヒノキなど)はグルーホーム郷の名湯といっても過言ではなく継続されている。入居者も花やヒノキなどを入れる布袋作りに携わっており楽しみが増しているようである。浴室は清潔・安全を心がけ、更に気持ちの良い入浴に繋がるよう、窓の棚は物品を置かないことで採光の良い浴室に繋げている。	それぞれの効能を持つ季節湯が、今後も入居者の楽しみとして継続されていくことに期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のスタイルで安心できる場所、休息できるよう見守り、支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を必ず確認し、処方変更についてはスタッフ間で情報交換し、副作用などの確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・食器拭き・お茶くみ・ちり紙折り等、その人ができる事で楽しみを持っていただき、気分転換を心がけ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出たり、バスハイクやふるさと訪問花見等、家族の方やボランティア様の協力を得て、外出できる支援をしている。	季節ごとの花見外出をはじめ、路上で駅伝応援を行うなど様々な外出が支援されることが確認された。自然環境を生かした散歩や菜園の管理、手入れされた敷地内で季節の花を眺めながらのお茶の時間も楽しみとなっている。また、家族やボランティアの協力によって多くの外出の機会が安全に展開されていることはホームの特徴である。	法人には観光地などのビデオが準備されているようである。今後はホームでも雨天時や外出を好まない方、思い出の旅行地があらわれる方などに『ビデオ旅行』を楽しめる機会も持たれることも一案と思われる。今後の取り組みに期待が持たれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている事で安心される方には支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が自由にできるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの入り口や各居室の入り口には表札や目印になる物を飾り、廊下の途中に光を取り入れ、臭いがこもらないように窓も多くある。又、季節を感じるようにこいのぼり・ひな祭りなどの工夫もしている。	二つのユニットは築年から外観や間取りが異なっており、更にそれぞれの職員がアイデアを出しながら過ごしやすい空間に努めている。畑作業に励む姿をリアルに表現した婦人の案山子が玄関先で迎えてくれる1丁目ユニット、リビングや風呂場からは近隣の田畑の眺めを一望でき心和む2丁目ユニットなどそれぞれの日常を更に活気あるものにしていく。入居者の寛いだ表情、来訪者に自己紹介や人生訓を伝える方など、一人ひとりの居場所が整えられたホームである。	各ユニットは趣のある空間作りが行われている。今後は定期的に掲示物の見直しを行うことで更に、スッキリとした落ち着いた共用スペースになっていくと思われる。取り組みに期待したい。また、一丁目ユニットでは以前設置されていたテレビが撤去されている。決してテレビを推奨するものではないが、個々の状況や希望にも配慮しながら再度検討されることも必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには椅子やソファがあり、本人様がござを敷きひなたぼっこをされたりして、自由に過ごして頂けるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の愛着のある鏡台や椅子など、使い慣れたものを持ってきて頂く事で安心感がわき、又、一人ひとり居室のカーテンや壁紙も違うので居心地良く過ごして頂ける工夫をしている。	清潔に管理された居室は、ベッドに限らず畳スペースを設け布団での就寝などこれまでの生活環境や身体状況に配慮し支援されている。また、家具や仏壇など馴染みの品々の持込みに加え、自宅で愛犬との生活を拠り所とされてきた方には、一緒に『郷』への入居とするなど微笑ましい環境を目にすることができた。入居者に応じ安全で過ごしやすい居室環境は家族の安心にも繋がり、更に信頼を深めるものになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名札や飾りで自分の居室とわかるよう又、「ゆ」ののれんや「便所」の表札で場所などがわかるようにし、自立に向けた生活が送れるように工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300865		
法人名	有限会社 郷		
事業所名	グループホーム 郷 二丁目		
所在地	熊本県宇城市松橋町西下郷236番地		
自己評価作成日	平成26年7月2日	評価結果市町村受理日	平成26年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の環境の中で家庭菜園を楽しみ、自然に生活を営みながら個人の生活度の重点を置き常に“今”“その時”を考え、入居後もその人が地域とのつながりが途切れる事のない地域連携を図っている。  
又、常に本人・家族との間での関わりを繋げ、決定権が持て意思確認を行いながら援助している。地域密着サービス事業所として、あくまでも利用者の日常支援を第一にしつつ地域への理解や地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないかを考え、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員が理解し「自由・自立・安全・社会的支援」を理念として実施できるよう、採用時からミーティング・毎朝の全体朝礼で唱和を行いそれぞれのGHでも折に触れ都度確認し合っている。日々、利用者に関わる際には常に念頭に置き、理念を意識した実践を心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事等への参加や、昔ながらの行事訪問や交流があり、ホーム内での行事では地域ボランティアの協力もある。近隣の方が家庭菜園に協力してくれたり花や野菜を頂いたり、ホームで作ったお菓子をおすそ分けしたりと交流もある。年2回の区役へも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症の方の理解をしていただく為の働きかけを行い、又、地域の方より介護保険についてや認知症の方の相談があった時には自宅へ訪問し支援を行っている。又、包括支援センターへつなげる等、一人でも多くの方々に正しく認知症の人の理解を高めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で「郷新聞」を発行し、利用者状況やサービスの実際、ホーム内での活動報告、行事、地域交流、職員研修報告を行い、参加者よりの意見を聞き、現場サービスへ活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月10日に実績報告書を提出し、空き状況や近況報告をしあい、質問・疑問の際は都度連絡し助言を頂いている。市町村連携を深める為、ディスカッションの依頼を求め協力関係に取り組んでいる。現在では認知症カフェの立ち上げに向けて協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加や毎朝の朝礼で、県の資料に基づき確認を行っている。利用者が外へ向かわれた際はさりげない見守りや付き添いをする等、その方の思いに寄り添っている。安易な拘束は弊害が多い事を認識し、安全で自由な生活をして頂ける様、個々に合わせたケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼時、県のライブラリーを利用し言葉の暴力やネグレクト等、虐待と気付かず行っている事はないか理解を深め、職員間で声を掛け合うことの大切さを確認すると同時に、管理者はスタッフのストレスの要因について配慮し、時には気分転換の場作りや、介護の対応への助言をしている。又、排泄時や入浴時には身体の観察を行い、打撲等を発見した場合は即原因を探り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用するケースはほとんどないが、いつでも対応できるように、管理者や職員は勉強会に参加し、活用できるように備えている。運営推進会議の中で包括支援センターとの話し合いもできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて全ての事項について理解されるまで丁寧に説明し、同意を得ている。重要事項説明書以外の要望や不安な事など、耳を傾けながら可能な限りその意向に応える様努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時は、常に話しやすい雰囲気作りを心掛け、要望や思いを伺って取り組んでいる。玄関にはご意見箱を設置したり、入所時に苦情相談窓口を説明している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グッドトライカード箱を設置し、職員一人ひとりの声に耳を傾け、月1回業務見直しや意見交換の場を設け反映させている。又、代表者や管理者は運営に関する全体会議を定期的に行い、意見を持ち寄って話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの能力や役割を理解し把握する事で、個別職員の発揮ができる様努めている。又、資格取得へも支援し発揮できる場への配置転換を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別職員の能力を把握し、外部研修等個人に応じた研修に参加している。全国大会等大きな研修や県外でも研修内容に応じて受けている。昨年の研修時間は内外を含め501時間であった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会への参加や勉強会での交流を通じた意見交換や、他のグループホームと相互訪問をしい、情報交換を行いサービスの質や今後の取り組みについても検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の生活背景や生き立ちをしっかりと理解し、可能な限り本人の生活状況を知る為に、生活の場を訪問し面談している。一つでも多くの情報を頂ける様、雰囲気作りを心がけ、思いを受け止め本人様が不安なく信頼関係が気づける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や苦勞、要望をしっかりと聴くようにし、家族の理解者である事を伝え、共に介護していく事を納得してもらおう事で安心して頂き、本人にとってどのような支援が大切なのか一緒に考えていく姿勢で対応し、気持ちを受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをしっかりと、本人にとってその時点で何が必要なのかを見極め、事業所として最大限にできる事を共に考えて、サービス調整を行っている。又、事業所だけにとどまらず、必要に応じそれぞれのサービス協力を依頼し段階的な支援に努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「我が家」と思ってもらえるような環境作りをし、自分の感情(喜怒哀楽)が自然に出せる様、又、生活習慣を把握し得意分野を活かした作業に協力してもらえる関係に努めている。料理の下ごしらえ・お茶入れ・食器拭き等一緒に行っている。人生経験豊富な話を聴け、職員が励まされたり労わってもらう場面も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方からの要望を伺ったり、利用者様の近況報告や新聞を送付して行事案内する事で身近に感じて頂き互いの距離ができないように関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム内での行事の呼びかけやふるさと訪問(街角交差点)へ出掛け昔の思い出やそこでの再会に思いをはせ継続的な交流を働きかけている。又、ホームへの訪問依頼をしての交流や出向いての関係をつなげている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や相性などを把握して席の配置を工夫したり、孤立しがちな利用者特に気を配り見守っている。又、利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも、手紙のやり取りや訪問をしたりと連絡を取り合い、その後の経過を見守りながらいつでも相談や支援に、できる限りの対応をする姿勢を示している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いをうまく表現できない利用者様も多い為、日々の関わりの中で思いを推し測る様に雰囲気作りをしながら努力しているが、困難な場合も多い。その場合は家族の意向を尋ねながら本人の立場になって検討するようにしている。又、希望等があった場合、困難な場合でも可能にする努力を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族との関わりを積み重ねながら、入所前の生活との違いなどなるべく多くの情報を早い時期に把握し、入所されても今までの関係は変わらず、そしてその中へ職員を入れて頂く思いで築いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様と向き合い、日々の小さな動作や行動から一人ひとりの思いや生活リズムを理解し、できる事やわかられる所での見落としがない様努めている。又、得た情報を職員間で共有できるよう、記録や申し送り等で伝達している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを立案し、日々の関わりの中から把握した事などをプランに沿っての記録を実施している。月1回のモニタリングを行い、本人や家族の意向を再確認しながら新たな課題やケアの在り方を確認し、意見交換しながら具体的なプラン作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性と活用方法について職員が知り、ケアプランに沿って記録を行っている。ミーティングを通してケース検討や情報の共有、ケアの統一を図り、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が入院中に家族も入院されており対応困難な場合など病院での書類手続きや洗濯物の受取り、本人の不安除去を目的とした面会など、その時々ニーズに対応している。全てにおいて固定観念にとらわれず、かなえる介護に取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の周辺情報や支援に関する情報交換や協力関係を築き、地域の方々がいつも行き来できるようにし、フォーマル・インフォーマルの協働をもとに本人がつながりを持ちながら生活できる支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を確認したうえでかかりつけ医を決定している。家族・職員が連携して通院支援をし、受診時は経過報告やデータを持参し安心して受診ができるよう支援している。又、家族が同行不可の時は受診後に家族へ報告し個人記録へ記入している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者のちょっとしたいつもと違う事でも速やかに報告・相談を行い、看護職の指示を仰ぎ、情報連携のポイントを絞っておき、安心して受診ができる様連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が訪問し、ホームでの情報を医療機関に提供する事で本人・家族のストレスや負担が軽減され、入院中認知症状が進行せず安心して集中治療がスムーズに行えるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	郷での終末期のあり方について、入所時より説明し本人・家族の意向を確認している。重度化の説明があった場合は、家族・職員・かかりつけ医を交えて今後の方針について話し合いを密にし、事業所の力量を把握して現状支援の見極めを行っている。その後、スタッフ全体で段階ごとに話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修では、新人研修から段階を分けて指導を行い、院外研修でも学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議のメンバー・地域住民・消防署と共に災害訓練を行い、スタッフ全員が一人であっても速やかに落ち着いて行動できるように運出(一人になる時間帯の職員)や当直で勤務に入る時は初期消火から通報までの訓練を行っている。又、居室の入り口にはADL状況を示したカードを下げ、近隣の方が認識できるように提示している。標示している。備食は缶詰・乾パン・飲料水を確保しており、簡易トイレ・毛布等も準備してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応の中で親しみを込めたつもりが、実は馴れ合いの対応ではなかったか、自尊心を傷つけてはいないか、常に振り返りの機会を持ちスタッフ同士その場で注意したり、ミーティング等を行い等を行い対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活全般にわたり、利用者自身が決定できるような声かけをしたり、言葉で表せない方には環境作りに配慮し、しぐさなどで表現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣、生活リズムを大切に、それに合わせた支援を心がけている。特定の利用者のペースに巻き込まれる事で他利用者のペースを崩す事がないよう気配りしつつ、利用者のつぶやきや利用者同士の会話を聞き逃す事なく希望に沿える支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の生活の中で、女性はお化粧をされたり男性は電気ひげそりをまめにかけられ自由にされている。外出時は一緒に洋服を選び、身だしなみの支援を行っている。又、理美容もボランティア・行きつけの理美容・訪問美容と選択ができる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や家庭菜園で採れた野菜を提供し、利用者の要望を伺いながらメニュー変更したり下ごしらえや食器拭き等、一人ひとりの力を発揮してもらい楽しい食事に取り組んでいる。又、本人が得意とされる饅頭作りなど、指導者としても発揮して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様によっては食事・水分チェックシートを活用し、一日の摂取量を把握している。定期的に体重測定を行い、増減に応じて食事の見直しをしたり、補食をし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後につがいや義歯洗浄を行い、義歯の状態・口内炎などの口腔内チェックを行っている。訪問歯科との連携を図り、週1回の口腔ケアを事業所サービスとし、定期的に勉強会を開催しながら知識を身につけ実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄支援を基本とし、オムツをしないですむ生活を目指し一人ひとりの排泄時間を記録に残し、排泄パターンを把握し、利用者ができる部分に対しての見守り、介助が必要な部分での支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを毎日行い便秘の原因を探り、必要に応じ自家漢方の大根エキスやゴーヤ粉末を提供している。食事では家庭菜園の新鮮野菜を多く取り入れたり、1日2回の機能訓練やレクリエーションでの活動等、ストレスも考え予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尋ねながら身体状況を確認して入って頂いている。入浴が楽しめるように季節感を取り入れながらばんぺい湯・バラ湯・ヒノキ湯・ゆず湯・しょうぶ湯等月替わりでイベント湯を行ったり、入浴剤を数種類用意し楽しみに工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースで過ごして頂きながらも、なるべく日中の活動性が向上し、夜間に良質な睡眠がとれるように生活リズム作りを働きかけている。体調や体力、生活スタイルに合わせ急用が必要な場合、その人が安心して落ち着ける場所の提供をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察時の状況報告に対しての薬剤情報を必ず確認し、処方に変更があった場合は申し送りを徹底し、情報交換・観察・症状等の確認に努めている。又、日常での記録を提示し情報交換を行い、治療や服薬調整に活かせる様連携し、確実な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる事を生活の中で発揮してもらえるように、その人に合う役割を見出し、負担にならない程度の作業を心がけ支援している。又、嗜好品を楽しめる様家族への連絡を図り、周囲の利用者への配慮をしつつ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	四季を感じて頂けるような外出を計画したり、思いつきのまま外出を行っている。又、利用者間での会話の中で本人の希望を話された時など聞き逃す事なく希望に応じる為、知人・家族・地域の方々へ協力をお願いし、外出の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が手元に持っておきたいと希望があった場合、家族の合意のもと自由に所持され、使用も支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話をかけたり、自分の意思で年賀状を書かれる方もおられ、準備や支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは広くいつも自然の光が入り、廊下の途中にも吹き抜けが設けられ明るい空間となっている。トイレも明るく、外を眺め開放感がある。リビングに面した台所からは調理の音・匂い等でくつろぎ感がある。季節を感じられる様にひな祭り・クリスマス・七夕・こいのぼり等壁飾りや生花、利用者で作成した手作りカレンダーを月毎に変える事でぬくもりある雰囲気作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングにソファだけでなくカーペット等を敷き、利用者のお気に入りの場所を作ったり、廊下にソファを置き1人になったり、気の合う仲間との時間を過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごせるように、使い慣れたタンス等の家具や写真、家族の位牌、仏壇など馴染みの物を持ち込んで頂き、家族と相談し個人を大切に考え、暖かい居心地作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間の要所に手すりを設置している。自立した生活がスムーズにできるようにトイレの表示をしたり、自室がわかりにくい方へは飾りを付け工夫している。又、食卓椅子で傾きのある方には、両肘かけが付いている椅子を用意し安全確保に努めている。		